

国際関係社会論 I

科目ナンバリング SOC-309
選択 2単位

中谷 直司

1. 授業の概要(ねらい)

【障碍などで配慮が必要な場合は、LMS上に記載するメールアドレスに連絡を下さい(大学からの連絡は履修が最終確定して以降になるため)】

国内社会を対象とする狭義の「社会学」や「政治学」と比較した場合、国際関係論(中核を占めるのは国際政治学)の歴史は比較的浅く、本格的な発展を始めるのは第2次世界大戦後からである。しかし(だから?)、入門書を少しひもとけば分かるように、国際関係の事象(戦争、平和、協力、グローバル化、南北格差、環境問題、貿易摩擦、非国家主体の台頭etc)を説明するための理論やアプローチは、多くのものが乱立している。このため、各理論やアプローチは、自身の説明能力の優秀さと時代や地域を越えた普遍性を主張するが、総体としての「国際関係論」は、どの理論・アプローチを採用すべきまではまだ、自信を持ってわれわれに教えてくれない。

もっとも、各理論・アプローチは、その普遍性の主張とは裏腹に、特定の時代状況や地域的な問題に強い影響を受けて生み出されてきた。よって本講義では、最初に「国際社会」の基本的な特徴を確認した上で、国際関係論の発展過程を国際政治史の展開と併せて概観することで、代表的な理論・アプローチの特質と、その背後にあった問題関心を説明する。

同時に授業では、①関連する記事などを使ったディスカッションと、②グループごとに課題を設定して実施する期末発表を実施し、能動的な知識と考え方の定着を図る。

2. 授業の到達目標

- ・自らの問題を国際政治を中心とする国際社会の問題と関連づけて具体的に考察して表現できる。
- ・国際社会を理解するにあたって、国際関係論・国際政治学と社会学、経済学、哲学など隣接分野がどのような関連にあるのかを説明できる。
- ・グローバルな社会状況に関心を持ち、自分と異なる背景をもつ人々と価値観・文化・歴史を尊重しながら積極的に交流できる。

*2つ以上でA評価、3つでS評価

3. 成績評価の方法および基準

- ・授業参加60%(リアクションペーパーの内容; ディスカッションへの参加; 新聞記事のミニプレゼン)
- ・グループ発表40%(グループワークでの貢献と活躍、課題の提出状況、プレゼンテーションの完成度、質問された数)

4. 教科書・参考文献

参考文献

木畑洋一 『国際体制の展開』 山川出版社 (世界史リブレット)
久米郁男 ほか編 『政治学 補訂版』 第7～9章, 第14章, 第16章 有斐閣有斐閣(有斐閣ストウディア)
村田晃嗣 ほか 『国際政治学をつかむ 新版』 有斐閣(有斐閣ストウディア)
吉川直人、野口和彦 『国際関係理論 第2版』 勁草書房
小川浩之、板橋拓己、青野利彦 『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

5. 準備学修の内容

- ・授業内容にそくした新聞記事(オンライン記事)をLMSの掲示板に投稿し、趣旨を説明する2分ミニプレゼンの準備をする(1人1-2回程度担当)。
- ・他の受講生がLMSの掲示板に投稿した記事に目を通し、自分の考えや疑問点をメモとしてまとめる。
- ・グループ発表に向けて、関連する報道記事等の文献の収集と読解、班員との意見交換、スライド作成を行う。

6. その他履修上の注意事項

- (1) 講義は配付する資料(レジュメ)を用いて行う。あわせて、関連するビデオ教材なども使用し、理解の促進を図る。
- (2) 受講生の関心や受講生の数に応じて、進度や内容を一部調整することがある。

7. 授業内容

- 【第1回】 国際「社会」(政治)の特徴——国内社会(政治)との対比で
- 【第2回】 主権国家体系の拡大と「国民国家」の普及
- 【第3回】 リアリズムとリベラリズム——国際関係の2つの見方
- 【第4回】 国際政治学の誕生——第1次世界大戦までの国際政治史
- 【第5回】 戦間期の理想主義とE.H.カーの批判
- 【第6回】 冷戦はなぜ起こったか——第二次世界大戦終結前後の国際政治史
- 【第7回】 第2次大戦後の国際政治学の発展
- 【第8回】 K.ウォルツ以後の国際政治学——覇権安定論、レジーム論、新自由主義制度論
- 【第9回】 冷戦後の国際政治学
- 【第10回】 講義の総括
- 【第11回】 期末発表のためのグループワーク1: テーマの設定
- 【第12回】 期末発表のためのグループワーク2: 関連文献を踏まえたディスカッション
- 【第13回】 期末発表1
- 【第14回】 期末発表2
- 【第15回】 期末発表3